

平成27年12月2日

教育復興シンポジウムV
21世紀の教員力・学校力・教育力の創造
～教育実践福島ラウンドテーブルからのスタート～

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の勃発から5年目を迎えています。復興に向けての取り組みが進んでいますが、福島県の教育活動はその影響が払拭されているとはまだ言い難い状況にあります。震災の経験を風化させることなく、その経験を新しい社会の創造につなげるためにも創造的なく教育復興の展開があらためて求められています。

本シンポジウムは、福島未来を支える子どものための＜教育復興＞を一層促進し、＜未来を創造する教育＞を足元から築くことを目的として開催されます。全国的な教育実践にも示唆を得ながら、大震災後の今日的な教育状況を共有しつつ、教育現場を支える経験と叡知を交流させ省察し学び合い、地域を拓く“生きる力”を育む創造的教育実践の展開につなげます。

1. 日 時 平成27年12月19日（土）9時30分～16時30分
2. 会 場 コラッセふくしま 3F 企画展示室（福島市三河南町1番20号）
3. 参加対象 一般、学生、教育関係者、研究者
4. プログラム
第1部（午前） 地域の未来を拓く創造的教育復興
～地域・学校・大学の新しい協働～
第2部（午後） 地域が変わる 学校が変わる 授業が変わる
教育実践福島ラウンドテーブル
～校種・職種・職業の違いを超え、経験・実践を語り合う～
5. その他 入場無料 申込み締め切り12月9日（水）

（お問い合わせ先）
人間発達文化学類支援室
担当：内村
電話：024-548-8101
メール：ningen@adb.fukushima-u.ac.jp

21世紀の 教員力・学校力・教育力の創造

～教育実践福島ラウンドテーブルからのスタート～



2015

12.19 土

9:30 ~ 16:30

**コラッセふくしま
企画展示室(3階)**

(JR福島駅西口より徒歩3分)

受付開始
9:00

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の勃発から5年目を迎えています。復興に向けての取り組みが進んでいますが、福島県の教育活動はその影響が払拭されているとはまだ言い難い状況にあります。震災の経験を風化させることなく、その経験を新しい社会の創造につなげるためにも創造的な〈教育復興〉の展開があらためて求められています。本シンポジウムは、福島の未来を支える子どものための〈教育復興〉を一層促進し、〈未来を創造する教育〉を足元から築くことを目的として開催されます。全国的な教育実践にも示唆を得ながら、大震災後の今日の教育状況を共有しつつ、教育現場を支える経験と叡知を交流させ省察し学び合い、地域を拓く“生きる力”を育む創造的教育実践の展開につなげます。

第1部

地域の未来を拓く創造的教育復興

～地域・学校・大学の新しい協働～ (9:50～12:00)

1

教育改革は教師教育改革から始まる

～教職大学院が担う地域とのつながり～

福井大学教職大学院教授兼
附属学園長

松木 健一 氏

2

被災地におけるプロジェクト学習への挑戦

～OECD東北スクールからふたば未来学園高校へ～

福島県立ふたば未来学園高校
副校長

南郷 市兵 氏

福島大学理事・副学長

三浦 浩喜 氏

3

震災後の学校状況調査概要(報告)

福島大学人間発達文化学類
教授

朝賀 俊彦 氏

第2部

地域が変わる 学校が変わる 授業が変わる

教育実践福島ラウンドテーブル(第2回)

～校種・職種・職業の違いを超え、経験・実践を語り合う～

(13:00～16:30)

福島大学人間発達文化学類教授
コーディネーター

松下 行則 氏

主催:大震災後の福島県の教育復興を進める会

参加団体

福島県市町村教育委員会連絡協議会、福島県都市教育長協議会、
福島県町村教育長協議会、福島県PTA連合会、福島県小学校長会、
福島県中学校長会、福島県公立学校退職校長会、
福島大学人間発達文化学類同窓会、福島大学、
福島大学人間発達文化学類

後援

福島県教育委員会、福島市教育委員会、郡山市教育委員会、
伊達市教育委員会、国見町教育委員会

お申込み
お問合せ

事前申込み

12月9日(水)までにメールまたはFAXでお申込みください。
申込用紙はwebページからダウンロードできます。(当日受付可)

<http://hdc.educ.fukushima-u.ac.jp/>

申込み・問い合わせ先:福島大学人間発達文化学類支援室

TEL 024-548-8101 FAX 024-548-3181
メール:ningen@adb.fukushima-u.ac.jp

昼食:駅周辺の飲食店やコンビニ等をご利用ください。

第1部

地域の未来を拓く創造的教育復興

1 教育改革は教師改革から始まる 福井大学教育学研究科教職開発専攻

21世紀の学校を協働して実現する学校改革のリーダー養成を目的とし、マネジメント・協働実践力のあるプロフェッショナルとしての教師の力量形成を図ります。21世紀の知識基盤社会に生きる力を培うために、子どもたち自身が探求し間違に学び合い、成長することのできる学校教育の実現が求められています。そしてその実現は学校を担う教員の専門的力と協働の努力に懸かっています。福井大学教育学研究科は、21世紀の学校教育を担うスクールリーダー・中核教員の専門的力の開発を目的とし、教職大学院・教職開発専攻を設置しました。そこでは、学校拠点に教師の協働実践力を培うことをめざします。

2 被災地におけるプロジェクト学習への挑戦

この4月に、21世紀型スキルを実践研究する「OECD日本イノベーション教育ネットワーク」が組織されました。その実践を担うプロジェクト「地方創生イノベーションスクール 2030」が始まります。本プロジェクトは、これから大きく変化する日本社会、とりわけ「地方課題」を中高生に考えさせ、取り組むことによって、将来を担うイノベーターを育てていきます。さらには、学校教育とも連動させ、「アクティブ・ラーニング」や「プロジェクト学習」などの課題にどのように取り組むかを考えていきます。「東北クラスター」(事務局:福島大学)には、ふたば未来学園高等学校や福島市立福島第二中学校、同岳陽中学校、宮城県気仙沼市の参加が決まっており、海外や他クラスターとの連携により、震災復興や環境問題、再生可能エネルギーなどの課題に取り組み、プロジェクトを展開します。



第2部

教育実践福島ラウンドテーブル

地域が変わる 学校が変わる 授業が変わる

第2回 教育実践福島ラウンドテーブル

学び続ける教師コミュニティ —どの子ども希望を奏でる教室をつくろう—

私たちは、3.11大震災・原発事故からコミュニティや生命の大切さを学び、新たな社会を創ろうと動き出しています。教師には、「教え覚えさせる」授業から自律や協働を通して「思考・判断・表現」する「学び」へと転換し、どの子ども未来の社会を創る担い手として育てていくことが求められています。学生と教師、研究者、市民が一堂に会して、どの子ども希望を奏でることができるように、新しい教育を創造するために思う存分に語り合しましょう。

学び続ける教師コミュニティ

学生、初任・若手教師・中堅・熟達教師、校長・教頭、指導主事、研究者、市民が、校種・職種、職業の違いを超えて交流し高め合います。

ラウンドテーブル

ファシリテータと報告者、聴き手が少人数で一つのテーブルを囲み、実践をじっくりと語り、聴き合い応答の中から、新たな方策が見えてきます。

ど
の
子
も
希
望
を
奏
で
る
教
室
を
つ
く
ろ
う

アクティブ・ラーニング体験

少人数での対話を通して、思考・判断・表現する新たな「学び」を体験します。自分の課題の解決策を見つけ、実践の方向性を探ります。

3時間にわたる話し合い

「初めは3時間もと思ったが、3時間話し合えたことで得ることが多かった。とても内容の濃い話し合いができた。」第1回(2015年夏)に参加した教師の声です。

お願い

報告者は、実践をミニ・レポート(A4 1枚程度)にまとめて10部ご持参ください。

ラウンドテーブルの
マナー

①実践の長い道のりをじっくり語り、じっくり聴き合います。
②参加者は、学び続ける教師コミュニティのメンバーとして対等です。